



Handwritten Chinese characters in cursive script (caoshu) on aged, yellowed paper. The characters are arranged in vertical columns, likely representing a title or a section of text. The ink is dark and the paper shows signs of wear and discoloration.







Handwritten Japanese calligraphy in a cursive style (sōsho). The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. The characters are dark ink on aged paper.



日かきとて  
 本くは  
 雅か

油所あるも



飛足る... 能行と予年来... 成業也の戯作者... 活業も根が... 蔵書... 和漢の... 書... 一... 三...

安政二卯歲秋彫刻

戀仙魯文誌







田原藤太

卅余手毛風  
之便丹吾  
楚問技離無  
花之宿緒

偽親皇將門

我が身は...  
由のう...  
手あ...  
に

平貞盛  
妻桔梗の前





上平太  
貞盛朝臣



成田山  
成田山

海賊長首

伊豫  
純友





































つた者ふそのいしやうかくふ城を  
 のを二丁あちのびて城の方を思え  
 是バハヤ大坂をいしとてそをえん  
 ぶが 烟とまのちうまがまの  
 の物まをえかち  
 城上東の城

まんとら  
 うとあ  
 中ふうとあ  
 八分かうの  
 うれバのい  
 やと持投のあ  
 を海ふうら  
 ぶづらひて  
 二方大あ  
 まう



又貞  
 めのま  
 うもあ  
 ぶね運の  
 赤とあおだたあやと  
 海してまうらと種か  
 赤帯あぶさあてあるべの  
 能へんまんとら  
 うもあ  
 あまの時武士あ  
 人とてえられバイ  
 まうらおの具

附の  
 の  
 せ下  
 小  
 こと  
 あれ  
 こと  
 こと













ついでに  
 ひた死物  
 二の双織  
 七の七  
 八の八  
 九の九  
 十の十  
 十一の十一  
 十二の十二  
 十三の十三  
 十四の十四  
 十五の十五  
 十六の十六  
 十七の十七  
 十八の十八  
 十九の十九  
 二十の二十  
 二十一の二十一  
 二十二の二十二  
 二十三の二十三  
 二十四の二十四  
 二十五の二十五  
 二十六の二十六  
 二十七の二十七  
 二十八の二十八  
 二十九の二十九  
 三十の三十  
 三十一の三十一  
 三十二の三十二  
 三十三の三十三  
 三十四の三十四  
 三十五の三十五  
 三十六の三十六  
 三十七の三十七  
 三十八の三十八  
 三十九の三十九  
 四十の四十  
 四十一の四十一  
 四十二の四十二  
 四十三の四十三  
 四十四の四十四  
 四十五の四十五  
 四十六の四十六  
 四十七の四十七  
 四十八の四十八  
 四十九の四十九  
 五十の五十  
 五十一の五十一  
 五十二の五十二  
 五十三の五十三  
 五十四の五十四  
 五十五の五十五  
 五十六の五十六  
 五十七の五十七  
 五十八の五十八  
 五十九の五十九  
 六十の六十  
 六十一の六十一  
 六十二の六十二  
 六十三の六十三  
 六十四の六十四  
 六十五の六十五  
 六十六の六十六  
 六十七の六十七  
 六十八の六十八  
 六十九の六十九  
 七十の七十  
 七十一の七十一  
 七十二の七十二  
 七十三の七十三  
 七十四の七十四  
 七十五の七十五  
 七十六の七十六  
 七十七の七十七  
 七十八の七十八  
 七十九の七十九  
 八十の八十  
 八十一の八十一  
 八十二の八十二  
 八十三の八十三  
 八十四の八十四  
 八十五の八十五  
 八十六の八十六  
 八十七の八十七  
 八十八の八十八  
 八十九の八十九  
 九十の九十  
 九十一の九十一  
 九十二の九十二  
 九十三の九十三  
 九十四の九十四  
 九十五の九十五  
 九十六の九十六  
 九十七の九十七  
 九十八の九十八  
 九十九の九十九  
 百の百























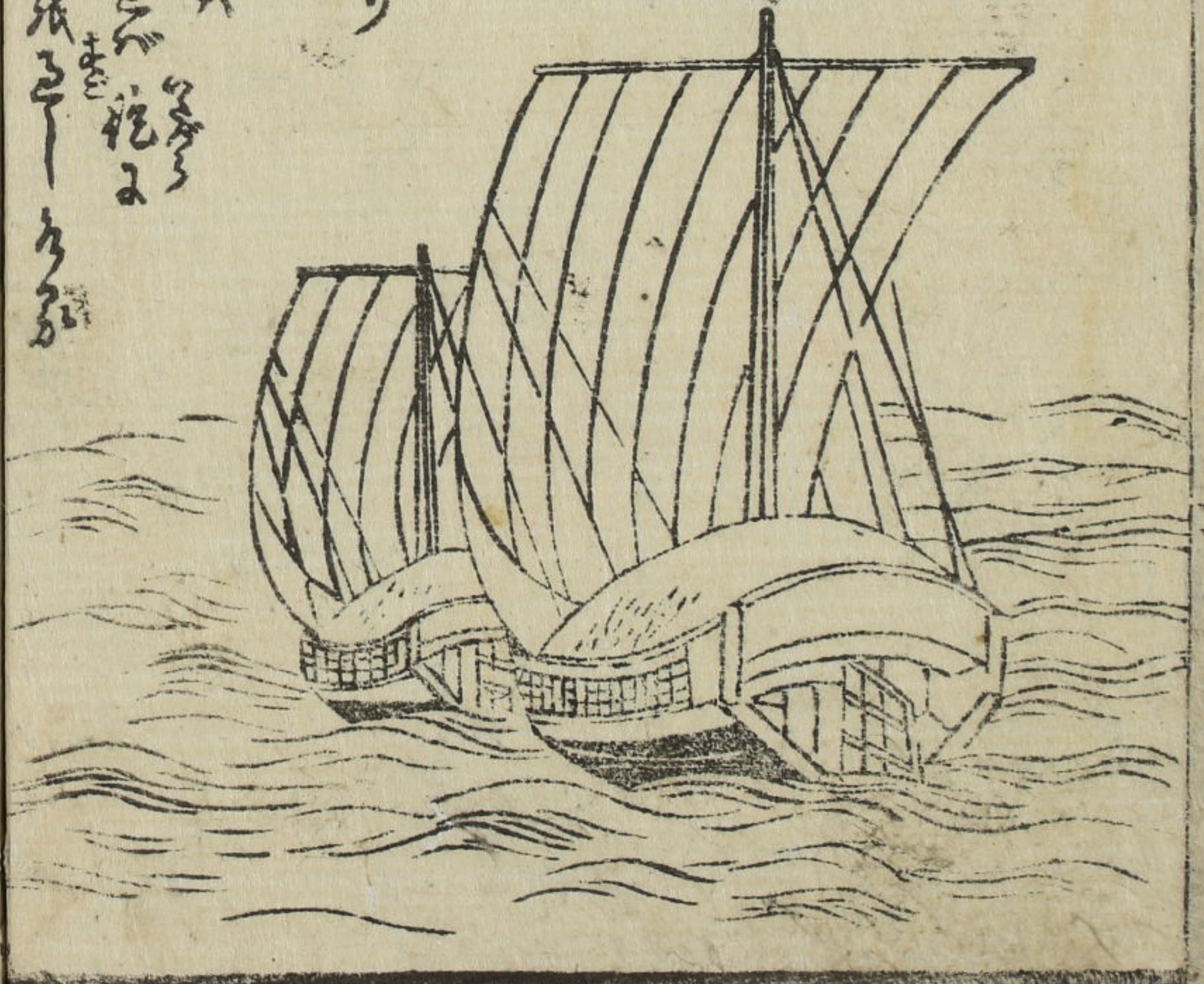








つき 百もあはれ海舟のこころを  
 ほふみん せん 義と見せ  
 國のおお船とふかの軍勢  
 かりのさう 時日残りのまは  
 絶友大なるふらとび先の途を  
 とし 船をさふけ 義をたす  
 引ふののみをわし なるこそ  
 ようしとく 二人の者ぬく 義めが  
 怪退せし くのさ ことふ  
 佐ととのとどりてあぐ 義  
 義とけつ 義と  
 一由年 義と なるか



へん 義と 義と 義と

義と

義と 義と 義と 義と

義と 義と





道之月

一夜

山口七郎左衛門

指さす指さす指さす

指さす

指さす

指さす

指さす

指さす





















二月  
 三月  
 四月  
 五月  
 六月  
 七月  
 八月  
 九月  
 十月  
 十一月  
 十二月



五月  
 六月  
 七月  
 八月  
 九月  
 十月  
 十一月  
 十二月

五月  
 六月  
 七月  
 八月  
 九月  
 十月  
 十一月  
 十二月

五月

五月















一、日ふぢり  
 をあはせよと  
 忠の者ぞたうぞ難波

二、日ふぢり  
 をあはせよと  
 忠の者ぞたうぞ難波

三、日ふぢり  
 をあはせよと  
 忠の者ぞたうぞ難波



上はせよと  
 忠の者ぞたうぞ難波

四、日ふぢり  
 をあはせよと  
 忠の者ぞたうぞ難波



五、日ふぢり  
 をあはせよと  
 忠の者ぞたうぞ難波

六、日ふぢり  
 をあはせよと  
 忠の者ぞたうぞ難波

七、日ふぢり  
 をあはせよと  
 忠の者ぞたうぞ難波

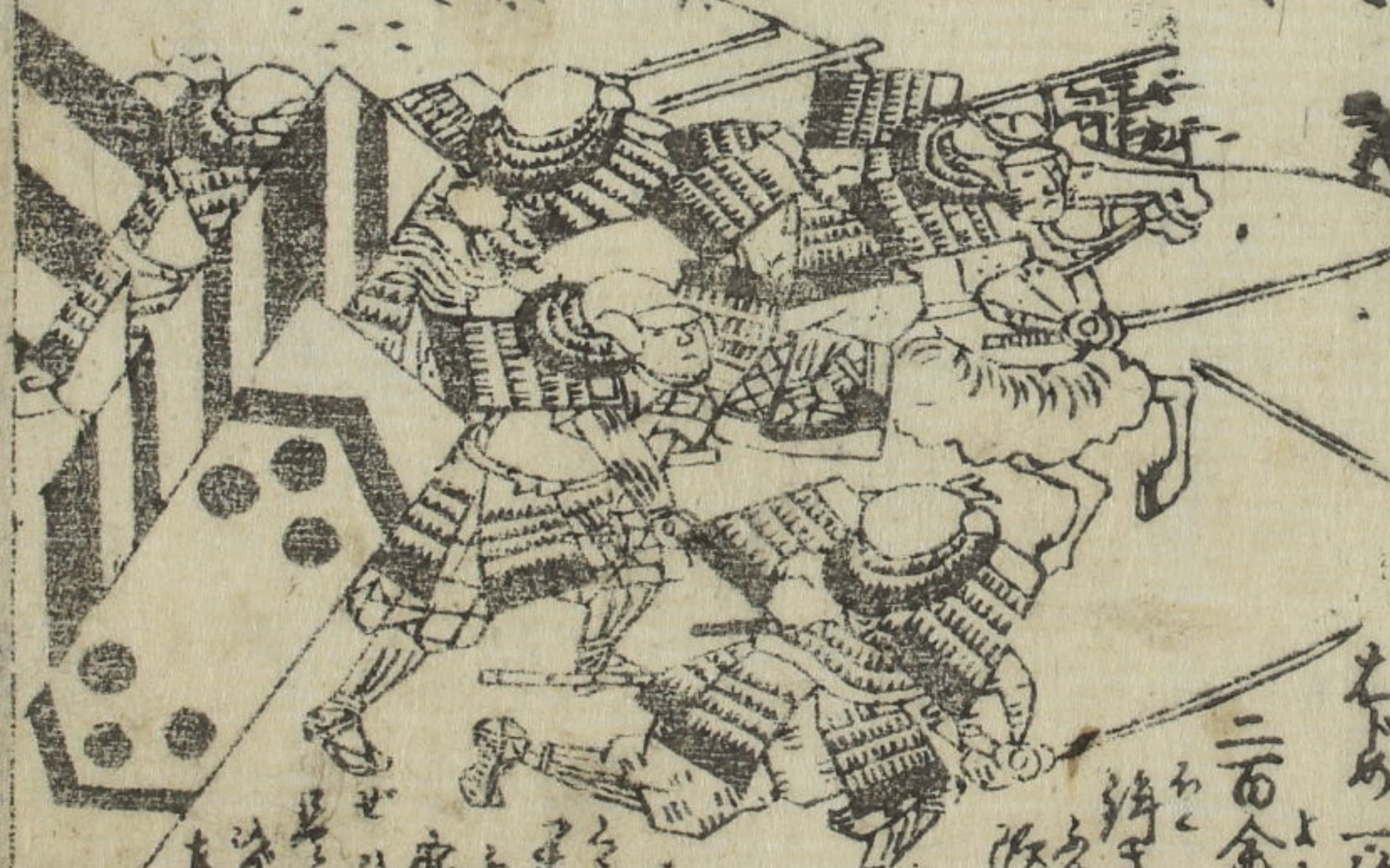






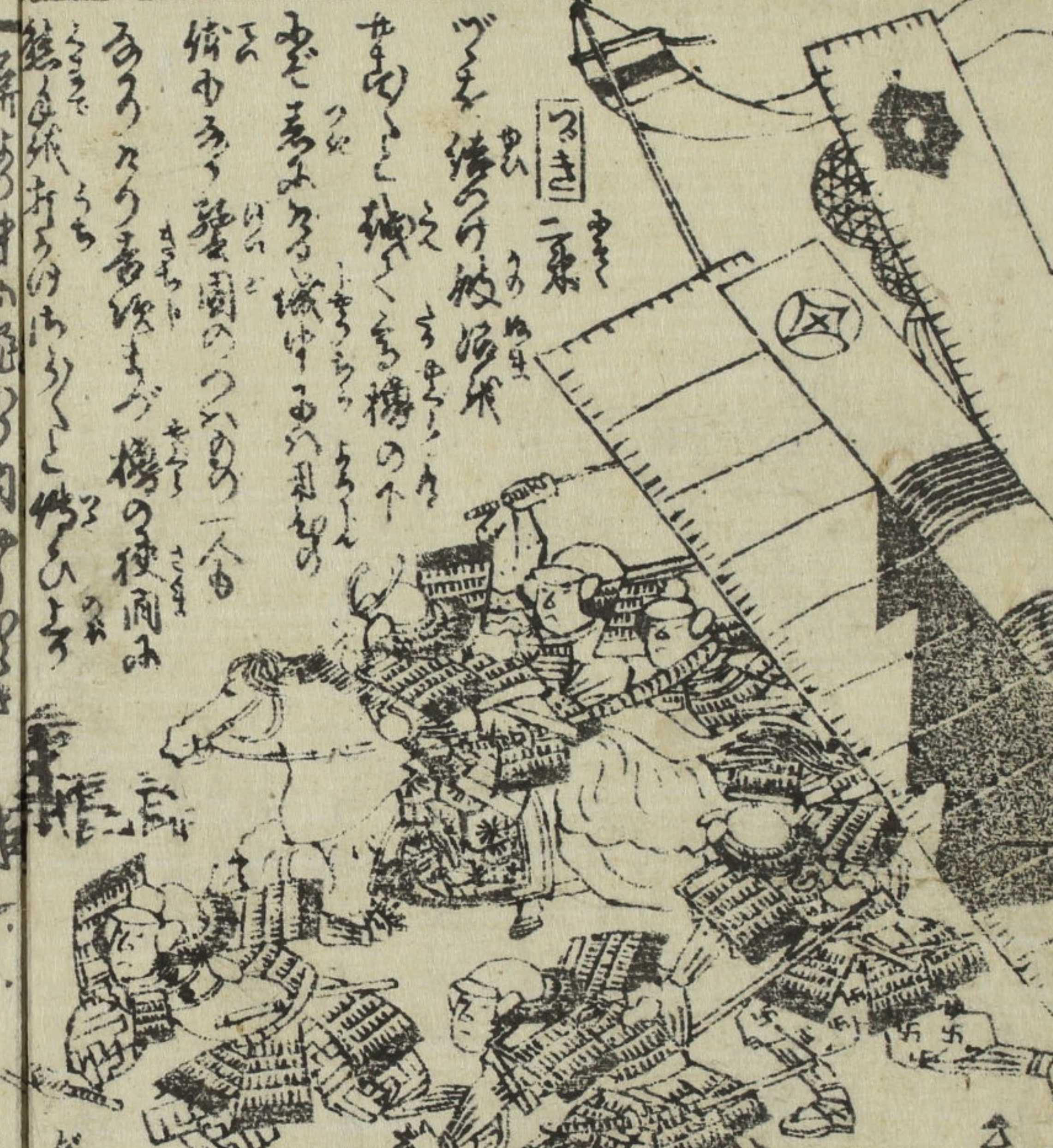






三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十

三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十



三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十

三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十



徳方の忠告を聞き  
 大目も勝るも有るの  
 一歩もあきらむるは  
 ぬ門の修成山とあり



此の  
 徳方の忠告を聞き  
 大目も勝るも有るの  
 一歩もあきらむるは  
 ぬ門の修成山とあり



此の  
 徳方の忠告を聞き  
 大目も勝るも有るの  
 一歩もあきらむるは  
 ぬ門の修成山とあり



世の中叔とや

あひらん我あくとろを

以甲後ぬいで海人

あぞあふるるあね

いあく多せふあめく人あ七方

あふ金勢とたのまをぞよるる

乃門が軍勢のらあめのとをへ一万騎あもてらげり

この日午の刻より大なる櫓は日附小軍をよまのこ

るるしりああふるるひん縣はあて地はあてをりるふ

控の真世が一子成るる甲貞世生年十九あふりるがあて

尚家の邊をよまそとあひさへばあねのあてくあはるるらあて

よく討死せんとたね軍のあねあふるるあての目くえり



武藏五郎

貞世

生年



十九日  
討死の圖

あひらん我あくとろを

以甲後ぬいで海人

あぞあふるるあね

いあく多せふあめく人あ七方

あふ金勢とたのまをぞよるる

乃門が軍勢のらあめのとをへ一万騎あもてらげり

この日午の刻より大なる櫓は日附小軍をよまのこ

るるしりああふるるひん縣はあて地はあてをりるふ

控の真世が一子成るる甲貞世生年十九あふりるがあて

尚家の邊をよまそとあひさへばあねのあてくあはるるらあて

よく討死せんとたね軍のあねあふるるあての目くえり

あひらん我あくとろを

以甲後ぬいで海人

あぞあふるるあね

いあく多せふあめく人あ七方

あふ金勢とたのまをぞよるる

乃門が軍勢のらあめのとをへ一万騎あもてらげり

この日午の刻より大なる櫓は日附小軍をよまのこ

るるしりああふるるひん縣はあて地はあてをりるふ

















あゝのちみんせらる  
 上平を頂上上保々月  
 重信の上段及その外息  
 重信の流傳上り  
 重信をよるう島塔を

あゝのちみんせらる  
 一年を系  
 重信の流傳上り  
 重信をよるう島塔を

と疑ひのちみんせらる  
 あゝのちみんせらる  
 重信の流傳上り  
 重信をよるう島塔を



あゝのちみんせらる  
 一年を系  
 重信の流傳上り  
 重信をよるう島塔を





つぎに  
大蛇たちまちの  
小男とあつては  
まへにまはらうの  
ちりまき一まき

性来の人へ成りては道ぞとて  
 別あるのほ 我ふ後来た地とまふ大蛇  
 あつては成らうてたびんやとらへて我にまはらう  
 け男をまふまてぬ水の流をりた水の中へ入るふ一ツの  
 横江のりむらたて用へるふ奇縁成鏡とびふつてされ  
 お花を名討成鏡へ入るをりたまはれぬ真まありふ  
 思く後流ふりまびとあつては我の寄るたはひあるぬ  
 とて周章をまはらう一は流身をたぬるをりたまはれぬ  
 流のりてらひまふ一は流身の寄るたはひあるぬ  
 流の中横江若舟のりち乗れたるまはらう一は流身の寄るたはひあるぬ  
 とて今うりては流をりたまはれぬのりたまはれぬのりたまはれぬ  
 二は流のりては流のりたまはれぬのりたまはれぬのりたまはれぬ







河

源家敵臣

山

...

...

鈍亭魯文補綴命一盛齋芳直画



...

...



Handwritten text in vertical columns, likely in Chinese or Japanese calligraphy. The characters are dark and somewhat faded, written on aged, yellowish paper. The text is arranged in approximately four columns, reading from right to left. The rightmost column contains characters that appear to be '心', '法', '門', '心', '法', '門'. The second column contains '心', '法', '門', '心', '法', '門'. The third column contains '心', '法', '門', '心', '法', '門'. The fourth column contains '心', '法', '門', '心', '法', '門'. There is a small white mark or hole on the left side of the page.